

授業科目	臨床心理基礎実習		担当教員	長野 恵子・池田 久剛・利光 恵	
展開方法	実習	単位数	2単位 必修	開設時期	通年
【授業目標】					
<p>臨床心理実践において必要とされる基礎的知識・技術を学ぶことを目的とする。</p> <p>受講者同士でのロールプレイ、本学臨床心理相談室において教員が行うインテイク面接への陪席、ケースカンファレンスへの参加、などの実習体験により心理面接の実際的、基本的な知識や技術の習得を目指す。</p> <p>任意実習として、福祉・教育、いずれかの領域で実際に利用者に関わることを通して、臨床心理士として必要な基礎的な態度やスキルを身につける。</p>					
【授業方法】					
<p>ロールプレイングを含む体験的学習。受講生には相談室運営への参加（電話受付の当番等）が義務付けられる。</p> <p>またカンファレンスでは積極的な発言（質問・感想・意見）を求める。</p> <p>学内外の実習機関における参与観察、陪席、実践的活動。</p>					
【授業計画】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、相談室説明（施設、規則、保険、役割、臨床心理業務に関する倫理） 2. ロールプレイ 3. ケースカンファレンスへの参加 4. インテイク面接への陪席 5. 下記任意実習のいずれかに必ず参加する <ol style="list-style-type: none"> ①障害児・者のグループ ②子育て支援グループ ③中学校心の教室 ④適応指導教室 ⑤その他必要と認められたもの 6. 学外実習施設（病院、教育機関、福祉施設等）における見学実習 <p>※スケジュールなどの詳細に関しては、年度初めに説明を行う。</p> <p>※任意実習に関してはその実習先や期間は、社会的な情勢の変化も考慮し、変更する場合がある。</p> <p>※任意実習に関しては原則として複数の実習先を経験することが望ましい。</p> <p>※任意実習先は、利用者との関係性なども鑑み、2年生の臨床心理実習でも継続することが望ましい。</p> 					
【評価方法】					
<p>活動や課題に対する積極性、適性、チームワークへの責任感や配慮等を総合的に評価する。</p> <p>各実習の出席・態度（積極的な発言なども含む）・報告書等を総合的に評価する。</p> <p>実習や報告書の内容については、個別にスーパーヴァイズなどの指導を受けることが望ましい。</p>					
【教科書・参考書】					
<p>教科書</p> <p>参考書</p>					
【学生に期待すること】					
<p>出席を重視する。欠席するときは必ず事前に担当教員に届け出ること。</p> <p>グループや相談援助活動などは、多くの時間や労力と、その継続が必要であり、また活動を通して自分自身と向き合い内省することが求められる。そのため、心身の自己管理・健康維持に日々努めること。</p> <p>記録のための機器の取扱いについては事前に習熟しておくこと。任意実習の実習先の選択については主体的・能動的に希望を考えること。ただし、適性を考慮し希望に添えない場合もある。</p>					